

「助け合い・支え合い・お互い様」を原点に 共に「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて前進しましょう！

大分県労働者総合生活協同組合が設立 60 周年を迎えました。これまでの間、勤労者福祉の向上に尽力されてこられた歴代の役職員の方々をはじめ、関係各位のご努力に心から敬意を表します。

さて、私は 8 歳上の長兄の影響を受けて、小学校の 5 年生の頃から「Beatles」を聴いていました。「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」や「アビーロード」をはじめとするアルバムに収録された曲は、脳裏に噛みついて「早く家に帰って聴きたい」という衝動に駆られる程のものでした。

また、今年は「楽聖」と言われた「ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン」の生誕 250 周年にも当たります。ベートーヴェンは、音楽家として失聴という絶望の淵に立たされますが、最後には人類愛にたどり着きます。「晩年のソナタは、人々に希望と歓喜を与えるもの」と言われています。

音楽は、「メロディー（旋律）」「ハーモニー（和音）」「リズム（律動）」の 3 要素で成り立っています。これら 3 要素が調和することで音楽が奏でられます。その中でも「リズム」が基本です。正確でしっかりとした「リズム」が刻まれてこそ、「メロディー」や「ハーモニー」が活かされます。

私たち人間は、よからぬことを思索する人たちが絶えない中、音楽を奏でるように温かい手と手をつなぎ合って、「お互いに仲間なんだ」「調和して生きていこう」という思いを共有して社会を形成して、2 拍子、3 拍子、4 拍子で、ある時は 8 ビートで、それぞれのリズムで生活してきました。

そし、その生活には、少なくとも 4 つのことが必要不可欠になります。1 つ目は、「所得」です。2 つ目は、「時間」です。3 つ目は、「安心」です。4 つ目は、「絆（きずな）」です。

就業することで雇用の安定が保障され、1 日 24 時間の内、「第 1 の 8 時間は仕事の時間、第 2 の 8 時間は休息の時間、そして残りの 8 時間は、自分の好きなことを行う時間」として生活をします。

しかし時として、人生の各段階で遭遇する様々なリスクの回避するためには、社会保障と「共助」は必要です。あるいは、人と人との関係を失った人が孤独に陥らないための社会的ネットワークを整備し、人間関係の回復、社会への再参加ができる筋道を示すことも重要となります。

Beatles に「The long and winding road」という曲があります。私たちの進む道は決して平坦ではありません。

だからこそ、誰もが安心して働くことができるワークルールとディーセント・ワークの確立、全世代支援型の社会保障制度の再構築、すべての子どもの教育機会の保障をはじめ、すべての働く者・生活者のくらしの底上げ・底支え、格差是正、貧困の撲滅などの課題解決に進めることが、大分県総合生協、連合大分の任務ではないでしょうか。

私たちは、共に運動の原点を確認しつつ、これまで培ったネットワークをさらに強め、「アフターコロナ」の社会のあり方を描きながら、運動を進めていきましょう。ともにがんばりましょう。